

二人分の飯を食って、二人分働け！

1月12日 多田区伝統行事、山の神講（二杯盛り）

400年以上も続く多田区の伝統行事、山の神講（二杯盛り）が多田区公民館で行われました。

二杯盛りは「2人分の飯を食って、2人分働け」という意味だと伝えられています。「いただきます」の合図とともに全員が一斉に食べ始め、残すことは許されず、全員が食べ終わるまで会が終わらないという珍しい行事です。

区から招待された小野市長と河野教育長は、盛られたご飯の量に目を丸くしていました。



▲山の神を礼拝する区民

◀丼ぶり2つを合せて盛る2杯盛り



▶子どもたちも挑戦！



▶見事、完食した河野教育長



▲盛られたご飯の量に驚く小野市長（右）と河野教育長（中央）

まゆ玉の展示や販売、制作体験も

1月13日～3月10日 まゆ玉の里が開催中

伊豆長岡温泉の新春の風物詩『まゆ玉の里』が、1月13日からホテルサンバレー伊豆長岡特設会場で開催中です。初日はオープニングセレモニーを行い、市や観光関係者らが集まり開催を祝いました。

まゆ玉は、かつて養蚕が盛だった伊豆長岡温泉に伝わる『豊年豊作、商売繁盛、家内安全』のご利益を祈願した縁起物です。

▶色とりどりのまゆ玉を手にとる芸妓さん



強くて美味しい麦に育ってね

1月14日 浮橋地区で幼稚園児の麦踏体験が開催

浮橋まちづくり実行委員会は、市内の園児を招き、麦踏み体験を開催しました。麦は傷つくことで丈夫に育つことから、早春の寒い時期に苗を足で踏む作業をします。

今回は、のぞみ幼稚園・大仁東幼稚園から67人の園児が参加し、畑一面に生える緑の芽を一行に並んで踏んでいきました。これらの麦は6月頃には収穫され、パンやうどんの原料になる予定です。

◀少しずつ、真剣に麦を踏みしめる園児たち



▲乾杯の音頭をとる長岡区の高野区長

今年1年の市の発展を祈願

1月6日 伊豆の国市賀詞交歓会を開催

区長や企業、各種団体の代表者ら約200人を招き、平成26年伊豆の国市賀詞交歓会をアクシスかつらぎ多目的ホールで開催。今年一年の市の発展を誓いました。

伊豆の国市は今年で市制施行10周年を迎えます。会では、葦山反射炉PRキャラクター『てつざえもん』に10周年記念のPR大使をお願いする委嘱式や、キャッチコピーの発表・表彰を行いました。キャッチコピーは昨年、一般公募により募集を行い中野洋子さん（小坂）の『歴史のドアを開けてみて伊豆の国』が選ばれました。



▲キャッチコピーを考案した中野洋子さん（中央）

イチゴを求め人・人・人

1月11日 伊豆の国いちごまつりを開催

イチゴの一番おいしいこの時期に、JA伊豆の国と市の共催によるいちごまつりをJA伊豆の国グリーンプラザで開催しました。

売り上げ金額を寄付をするイチゴチャリティーでは、安価でおいしいイチゴを買うことができることから、今年も多くの人々が詰め掛けました。そのほか会場では、イチゴやミニトマトが当たる大抽選会や、餅まき、品評会出展イチゴの直売などを行いました。

◀イチゴを求め多くの人でにぎわうイチゴチャリティー



団員の結束を固めていくことが重要

1月12日 消防団出初式を挙行

伊豆の国市消防団出初式を長岡体育館で行い、消防団員220人が参加しました。

伊奈団長は「先人たちが培った伝統を継承し、郷土愛護の精神のもと、日頃の訓練に精進し、結束を固めていくことが重要」と訓示。そのほか、長年にわたり消防団活動に貢献した団員に対する表彰や、火の用心三唱などを行いました。式典終了後は、全分団による一斉放水を狩野川中島河川敷で実施しました。

▶城山に向かって一斉放水する消防団員

